

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成26年6月1日現在

機関番号：34310

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653118

研究課題名（和文）コンバージェンスを巡る会計戦略に関する実験比較制度分析

研究課題名（英文）An experimental comparative institutional analysis for accounting strategy on global convergence

研究代表者

田口 聡志（TAGUCHI, Satoshi）

同志社大学・商学部・教授

研究者番号：70338234

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）2,600,000円、（間接経費）780,000円

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、国際会計基準のコンバージェンスを巡る経済的帰結を実験比較制度分析により分析することである。分析の結果、1.会計基準の同質性を前提とするとコンバージェンスは困難であること、2.国際会計基準が唯一品質の高い基準であっても、コンバージェンスは困難であること、3.コンバージェンス達成のためにはエンフォースメントの仕組みが重要となることなどが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to examine the economic consequences of global accounting convergence and to reveal the role of Japanese accounting standard setter, using the new social approach of experimental comparative institutional analysis. The results of our study are as follows: First, under the condition that there is no difference among the accounting institutions, the movement towards convergence of International Financial Reporting Standards would finally come to an end. Second, though the IFRS is the only high quality standard set in the world, the movement towards convergence would also come to an end. Third, for global accounting convergence, the concept of correlated equilibrium of game theory would anticipate that the some optimal enforcement system facilitates global convergence.

研究分野：会計

科研費の分科・細目：会計

キーワード：

会計制度、国際会計基準、コンバージェンス、ゲーム理論、実験経済学

1. 研究開始当初の背景

近年の国際会計基準（IFRS）を軸とするコ

ンバージェンスないしアドプションの問題は、現在の会計研究において最重要課題の1

つとして位置づけることが出来、またその是非については賛否両論あるが、研究としてはまだ端緒についたばかりとも言える。すなわち、コンバージェンスやアドプションを巡っては、学界・実務界問わず賛否両論あるが、しかし、いずれも「地に足がついた議論」不足の感が否めない。たとえば、コンバージェンス賛成論は、財務諸表の比較可能性や会計基準のネットワーク外部性をその根拠とするが、比較可能性がどの程度担保されるのか、またどれだけのネットワーク外部効果があるのかについては必ずしも明らかではない。また、コンバージェンス反対論は、基準間競争の必要性などをその根拠とするが、逆に競争を行うことの負の効果はないのか、必ずしも明らかではない。更に、国際会計基準に係るアーカイバル型の実証研究は徐々に行われつつある（具体的には、国際会計基準の導入国における株式価値関連性の検証や、個別基準の検証などが挙げられる）。しかし、その結果はやはり賛否両論あるし、また、これらの実証は、あくまで部分的・事後的な検証に過ぎず、「世界に1つ（1セット）だけの会計基準」となることそのもののメリット・デメリットを計測するものではない。

2. 研究の目的

本研究は、企業会計において喫緊の問題である国際会計基準を巡るコンバージェンスないしアドプションを巡る各国間の動向を、実験比較制度分析という新しいアプローチにより検討することで、その経済的な帰結を予測すると共に、世界経済の中で我が国が果たすべき役割ないし会計戦略の一端を明らかにすることを目的とするものである。具体的には、会計制度を各プレイヤーの「共有予想」（ゲームの均衡）として捉え、これまでの理論モデルで示される「国際会計基準のジ

レンマ」問題を精緻化すると共に、実験経済学的手法により、当該モデルを実験的に検証し、その経済的帰結ないし「意図せざる帰結」を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、会計制度研究に、実験比較制度分析という新たな方法論を提案する。具体的には、会計制度の生成や崩壊という動態を、比較制度分析によりモデル化し、かつ実験的手法で検証する。ここでは、会計制度を各プレイヤーの「共有予想」（ゲームの均衡）として捉え、その共有予想が、どのように形成され、またどのように変化していくかを具体的に検証していく。このような分析手法は、これまでの会計制度研究では見られなかった新しい手法である。

4. 研究成果

上記の目的を達成するために、我々は、同志社大学および青山学院大学において経済実験を実施し、そのデータを解析するとともに、経済実験で得られた当初予想からの「意図せざる帰結」をゲーム理論のモデルにフィードバックする作業を行った。そこで得られた我々の研究成果は以下のとおりである。

(1) EU などにより行われた同等性評価による会計基準間の品質に相違がない状態を前提とすると、コンバージェンスは極めて困難であること。

(2) 国際会計基準審議会（IASB）が掲げる目標である「国際会計基準が唯一品質の高い会計基準であるという状況」であっても、コンバージェンスは極めて困難であること。

(3) ゲーム理論の相関均衡の考え方からすると、コンバージェンス達成のためには適切なエンフォースメントの仕組みが重要となること。

また、今後の課題としては、特に会計基準

のエンフォースメントについて、更なるモデル分析と実験研究が必要となることが挙げられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

① 田口聡志、
実験会計学が繋ぐコーポレート・ガバナンスの理論と実務：マクロ会計政策の実験比較制度分析に向けて、
同志社商学、査読無し
第66巻第1号、2014年、掲載確定

② 田口聡志、
会計基準のコンバージェンスにおける「基準作りの基準」問題の位置づけを巡って：相関均衡モデルの再検討、
同志社商学、査読無し
第65巻第6号、2014年、pp. 195-217。

③ Satoshi TAGUCHI, Masayuki UEEDA, Kazunori MIWA, and Satoru MIZUTANI.
Economic Consequences of Global Accounting Convergence: An Experimental Study of Coordination Game.
The Japanese Accounting Review, 査読あり
Vol.3, 2013, pp. 103-120.

④ 上枝正幸、
会計基準の国際的な統一の経済分析 -ゲーム理論を援用した先行研究の再検討とモデルの将来的帰結、
青山経営論集、査読無し
第48巻第2号、2013年、pp. 221-246.

⑤ 田口聡志、
こころと制度の実験検証：実験比較制度分析が切り拓く新たな会計研究の地平、
税経通信、査読無し
第67巻第1号、2012年、pp. 25-32。

⑥ 田口聡志、
制度と実験：会計基準のグローバル・コンバージェンス問題を題材として、
社会科学、査読あり
第41巻第3号、2012年、pp. 1-29。

⑦ Satoshi TAGUCHI, Masayuki UEEDA, Satoru MIZUTANI, and Kazunori MIWA.
Will the movement towards convergence of International Financial Reporting Standards finally come to an end?: An experimental Study.

Proceedings of the First International Conference of Journal of International Accounting Research (JIAR), 査読あり
Vol.1, 2011, pp.1-19.

[学会発表] (計3件)

① Satoshi TAGUCHI, Masayuki UEEDA, Satoru MIZUTANI, and Kazunori MIWA.
Economic Consequences of Global Accounting Convergence: An Experimental Study.
The 3rd International Conference of the Japanese Accounting Review, 査読あり
2012年11月9日、Kyoto, JAPAN.

② Satoshi TAGUCHI, Masayuki UEEDA, Satoru MIZUTANI, and Kazunori MIWA.
Economic Consequences of Global Accounting Convergence: An Experimental Study.
The 2012 American Accounting Association (AAA) Annual meeting, 査読あり
2012年8月8日、Washington D.C. USA.

③ Satoshi TAGUCHI, Masayuki UEEDA, Satoru MIZUTANI, and Kazunori MIWA.
Will the movement towards convergence of International Financial Reporting Standards finally come to an end?: An experimental Study.
The First International Conference of Journal of International Accounting Research (JIAR), 査読あり
2011年6月16日、Xiamen, CHINA.

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田口 聡志 (TAGUCHI, Satoshi)
同志社大学・商学部・教授
研究者番号：70338234

(2) 研究分担者

上枝 正幸 (UEEDA, Masayuki)
青山学院大学・経営学部・准教授
研究者番号：20367684

水谷 覚 (MIZUTANI, Satoru)
帝塚山大学・経営学部・准教授
研究者番号：70461853

(3) 連携研究者

なし